

第2学年 国語科学習指導案

児童 男10名 女4名 計14名
指導者 箱石 悟

1 単元名 ようすを考えて読もう「お手紙」(光村図書 二年下)

2 単元について

第1, 2学年の学習指導要領「C 読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。本単元は、「C 読むこと」の内容「ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。」「エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。」を指導することに適した単元である。「お手紙」は、かえるくんとがまくんの心の触れ合いがほのぼのと伝わってきて、親しみのもてる物語である。がまくんが来るあてのない手紙を待つ悲しさは、友だちを求める心であり、人との触れ合いを望んでいる心である。かえるくんは、がまくんの喜びを自分の喜びとして、ともに手紙を待つ。悲しんでいる友だちを思い、さり気ない優しさで喜ばせようとする善意とほのぼのとした温かい友情が作品の主題である。読書・読み聞かせが大好きな児童にとって、この「お手紙」との出会いは、物語の世界に浸り、がまくんやかえるくんに寄り添ってともに喜んだり悲しんだりしながら、素直な心でお話の世界に入り込み、思う存分想像を膨らませることのできる教材であると考えられる。

児童はこれまでに「ふきのとう」で、場面の様子などについて想像しながら読むこと、「スイミー」では、挿絵も参考にし、場面の様子や登場人物の気持ちを考えながら読む学習を行ってきた。その結果、意欲的に国語学習に取り組み、登場人物の言動や心情、場面の移り変わりを読み取る力や、進んで物語を読もうとする態度が育ってきた。児童は、自分から積極的に発言する児童と、発言はしないがよく聞く児童に二分されるが、発言の機会を増やすよう指導してきた結果、発言の少なかった児童も自分の考えを発表できるようになってきた。「一人学び」において大事なところを見つけたり、サイドラインを引いたりする際、どの語句や文を根拠に考えたのかを明確にする力は十分とはいえない。さらに、「学び合い」において友だちの発表や意見について、認めることはできてもそれを共感して自分のものにするまでには至っていない。音読活動については、継続して家庭での音読に取り組むことにより元気よく読めるようになってきているが、自ら様子を考えて読んだり、会話を工夫して読んだりするまでには至っていない。

指導にあたっては、会話や行動をもとに、それぞれの場面におけるがまくんとかえるくんの気持ちを押さえ、二人の様子の移り変わりをとらえることを中心に指導していきたい。「見通す」段階では、手紙をもらった経験を話し合わせ、教材文への興味づけにつなげた後、全文を読み初発の感想を書かせ、学習課題をつかませたい。「深める」段階では、場面の様子やがまくんとかえるくんの心情を読み深めていきたい。その際、「一人学び」の方法として大事な言葉にサイドラインを引いたり、視写をしたりさせ、一人で読み取りができない児童には教師と一緒に手がかりとなる語句について考えさせていきたい。また、挿絵も二人の心情や場面の読み取る手がかりとしていきたい。「学び合い」の方法は、一人学びで読み取ったことを互いに深め合い課題に迫りたい。「確かめる」段階では、読み取ったことを表現することとし、どこを工夫して音読するか話し合わせ、練習した後に音読発表会を開いて良かったところを伝え合う活動を取り入れたい。最後の「広げる」段階では、アーノルド＝ローベルの他の作品を紹介し、絵本に親しむ場を設けたり、読み聞かせをしたりして本への興味・関心をもたせ、楽しんで読書しようとする態度を育てていきたい。

本時の学習では、会話文とかえるくんが出した手紙の内容を手がかりにがまくんの気持ちの変化を読み取らせ、それをもとにして二人の幸せな気持ちを話し合わせていきたい。「とらえる」段階では、前時で手紙が届くのを心待ちにしているかえるくんと、悲観的になっているがまくんの対照的な様子を想起させた後、本時の学習課題を確認していきたい。「ふかめる」段階では、「一人学び」として、課題解決の見通しを持たせた後、がまくんの気持ちや様子の変化したところにサイドラインを引かせたい。「学び合い」では、サイドラインを引いた言葉をもとに、二人が幸せな気持ちになっていく様子を話し合わせていきたい。「まとめる」段階では、幸せな二人の気持ちを想像して吹き出しに書かせたい。

3 単元の目標

- 易しい読み物に関心を持ち，進んで他の読み物も読もうとする。(関・意・態)
- 場面の様子をとらえ，会話文から登場人物の様子を想像して読む。(読ウ)
- 登場人物の特徴をつかみ，場面の様子想像しながら読む。(読ウ)
- 登場人物の様子が表れるように，読み方を考えて音読する。(読工)
- 姿勢，口形などに注意して，はっきりした発音で話すことができる。(言ア)

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の特徴をつかみ，場面の様子想像しながら進んで読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> がまくんやかえるくんの心情について，想像しながら読むことができる。(ウ) がまくんやかえるくんの気持ちが表れるように語や文のまとまり，声の大きさに注意して音読することができる。(工) 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢，口形などに注意して，はっきりした発音で話すことができる。(ア)

4 指導計画(12時間)

過程	学習内容	主な学習活動	学習活動における評価規準
見通す (2)	物語の展開を予想しながら，読み聞かせを聞く。	かえるくんとがまくんのどちらの会話文であるか確認しながら，全文を読み初発の感想を書く。	読 - ア かえるくんとがまくんのどちらの会話文であるかを確認しながら，全文を読み初発の感想を書く。 A かえるくんとがまくんのどちらの会話文であるかを理解し，二人の気持ちに触れて初発の感想を書くことができる。 B かえるくんとがまくんのどちらの会話文であるかを理解し，初発の感想を書くことができる。
		場面分けをし，学習課題をつかむ。	読 - ウ 登場人物の特徴をつかみ，場面の様子想像しながら読もうとしている。 A 登場人物の気持ちになり，物語の展開を予想しながら読み聞かせを聞くことができる。 B 物語の展開を予想しながら，読み聞かせを聞くことができる。
深める (5)	場面毎に，登場人物の様子や会話に気を付けながら読みを深める。	お手紙をもらったことのないがまくんの悲しみや，がまくんを思うかえるくんの気持ちを読み取る。	読 - ウ お手紙をもらったことのないがまくんの悲しみや，がまくんを思うかえるくんの気持ちを読み取ることができる。 A かえるくんの優しさや悲しさ，がまくんの悲しい気持ちを読み取るすることができる。 B かえるくんの優しさや，がまくんの悲しい気持ちを読み取るすることができる。
		大急ぎで帰ってがまくんのために手紙を書き，かたつむりくんに託すかえるくんの気持ちを読み取る。	読 - ウ 大急ぎで帰ってがまくんのために手紙を書き，かたつむりくんに託すかえるくんの気持ちを読み取る。 A 大急ぎで帰ってがまくんのために手紙を書き，かたつむりくんに託すかえるくんの優しさを読み取ることができる。 B かえるくんの様子から，がまくんを思う気持ちを考えることができる。

		手紙が届くのを心待ちにしているかえろくと、悲観的になっているがまくんの対照的な様子を読み取る。	読 - ウ 手紙が届くのを心待ちにしているかえろくと、悲観的になっているがまくんの対照的な様子を読み取ることができる。 A 悲観的になっているがまくんとがまくんを想うかえろくの気持ちの違いを読み取ることができる。 B 何度も窓の外をのぞくかえろくの気持ちを考えることができ、がまくんの様子も読み取ることができる。
		手紙のことを聞いて喜ぶがまくんと、幸せな二人の様子を読み取る。 (本時)	読 - ウ 手紙のことを聞いて喜ぶがまくんと、幸せな二人の気持ちを読み取ることができる。 A 二人とも幸せな気持ちで座っている理由を読み取り、互いを想う気持ちを吹き出しに書くことができる。 B 二人とも幸せな気持ちで座っている理由を読み取り、吹き出しに書くことができる。
		手紙をもらって喜ぶがまくんと、かえろくの優しさを読み取る。	読 - ウ 手紙をもらって喜ぶがまくんと、かえろくの優しさを読み取る。 A 四日間待っている二人の様子を想像することができ、お手紙を届けてくれたかたつむりくんについても考えることができる。 B 四日間待っている二人の様子を想像することができる。
確 か め る (4)	読み取ったことを表現する。	「ふたりとも、かなしい気分」から「ふたりとも、とてもしあわせな気持ち」になる物語のあらすじを確かめる。	読 - ウ 「ふたりとも、かなしい気分」から「ふたりとも、とてもしあわせな気持ち」になる物語のあらすじを確かめることができる。 A 悲しい気持ちでお手紙を待つ姿と、幸せな気持ちでお手紙を待つ姿を挿絵も見ながら比べることができる。 B 悲しい気持ちでお手紙を待つ姿と、幸せな気持ちでお手紙を待つ姿を比べることができる。
		役割を決め、どこを工夫して音読するかを話し合う。 音読の練習をする。 音読発表会をする。	読 - エ がまくんやかえろくの気持ちが表れるように語や文のまとまり、声の大きさに注意して音読する。 A どこをどのように読むかははっきりさせ、言葉のまとまりや響きを考えながら登場人物の気持ちが表れるように音読をすることができる。 B どこをどのように読むかははっきりさせ、言葉のまとまりや響きを考えたり気持ちを想像しながら音読をすることができる。
広 げ る (1)	同じ作者の本を読む。	がまくんとかえろくを主人公にしたアーノルド＝ローベルの他の作品に親しむ。	読 - ア 本を楽しみながら読むことができる。 A がまくんとかえろくが主人公の作品を読むことができ、物語の世界に浸ることができる。 B がまくんとかえろくが主人公の作品を読むことができる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

手紙のことを聞いて喜ぶがまくんと、幸せな二人の様子を読み取ることができる。

(2) 展開

過程	学習活動 主発問	学習活動に対する支援等 具体的評価規準
とらえる (5)	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ふたりは、げんかんにすわって、どんなことを考えていたのだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 手紙が届くのを心待ちにしているかえるくんと、悲観的になっているがまくんの対照的な様子を想起させる。
ふかめる (25)	3 学習場面の音読をする。 学習場面 (P12L6 ~ P15L3) を音読し、学習の見通しを持つ。 ・一斉読み 4 課題解決をする。 がまくんの嬉しさを読み取る。 (一人学び) ・がまくんの気持ちや様子がわかるところにサイドラインを引き、視写をする。 一人学びしたことをもとに学び合う。(学び合い) ・がまくんの会話文を発表する。 ・がまくんの会話文から、なぜそのように言ったのかを話し合う。 がまくんだけではなく、ふたりともしあわせな気持ちになったのはなぜでしょう。 ・(しあわせ)ではなく、(とてもしあわせ)なのはなぜかを考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> がまくんの気持ちや様子が変わったところに気をつけながら音読をさせる。 会話文を手がかりに考えさせたい。 気持ちの変化があった P 13 L 8 以後のがまくんの会話文に着目させる。 「きみが。」「お手紙に、なんて書いたの。」「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」にサイドラインを引き、視写をさせる。 がまくんの驚きとかえるくんが手紙を出した事実を読み取らせる。「ああ。」と言ったがまくんの気持ちを読みとらせる。 手紙の内容文から「いいお手紙」ではなく、「とてもいいお手紙」だと思ったのはなぜかを考えさせる。 お手紙の内容と出してくれた行為によってしあわせな気持ちになったがまくんと、がまくんの様子を見て幸せな気持ちになったかえるくんの様子を考えることができるようにする。 (しあわせ)ではなく、(とてもしあわせ)なのはなぜかを考え、話し合わせる。 1の場面の(とてもふしあわせ)から、本時の(とてもしあわせ)になった気持ちの変容をとらえさせる。
	5 本時のまとめをする。 幸せな二人の気持ちを想像して吹き出しに書く。	<ul style="list-style-type: none"> 板書を振り返り、二人の心が通い合い、幸せな気持ちになっていることを想像して、吹き出しに書くことができるようにする。

ま と め る (1 5)	まとめ例 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> がまくん・・・はじめてのお手紙うれしいな。早く読みたいな。かえるくん ありがとう。 かえるくん・・・お手紙を書いてよかったな。がまくんうれしそうだな。 </div>	具体の評価規準 手紙のことを聞いて喜ぶがまくんと、幸せな二人の様子を読み取ることができる。 A 二人とも幸せな気持ちで座っている理由を読み取り、互いを想う気持ちを吹き出しに書いている。 B 二人とも幸せな気持ちで座っている理由を読み取り、吹き出しに書いている。 (手だて) ・ 手紙の内容や会話文から、がまくんが幸せになった理由を確かめるように助言する。 ・ 前時までのかえるくんのがまくんに対する想いを想起させる。
	・ 吹き出しに書いたことを発表する。 二人の様子を想像しながら、音読をする。 ・ 役割読み。 6 次時の学習内容を知る。	・ かえるくんとがまくんのように幸せな気持ちで音読をする。 ・ 手紙をもらって喜ぶがまくんと、かえるくんの優しさを読み取るを知らせる。

(3) 評価 二人の幸せな様子を読み取ることができたか。

(4) 板書計画

「お手紙に、なんて書いたの。」

「ああ。」

「とてもいいお手紙だ。」

『親愛なるがまがえるくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえるくん。』

しあわせ

とてもしあわせ

お手紙
か
だ
い
ふたりは、げんかんにす
わつて、どんなことを考え
ていたのだから。